

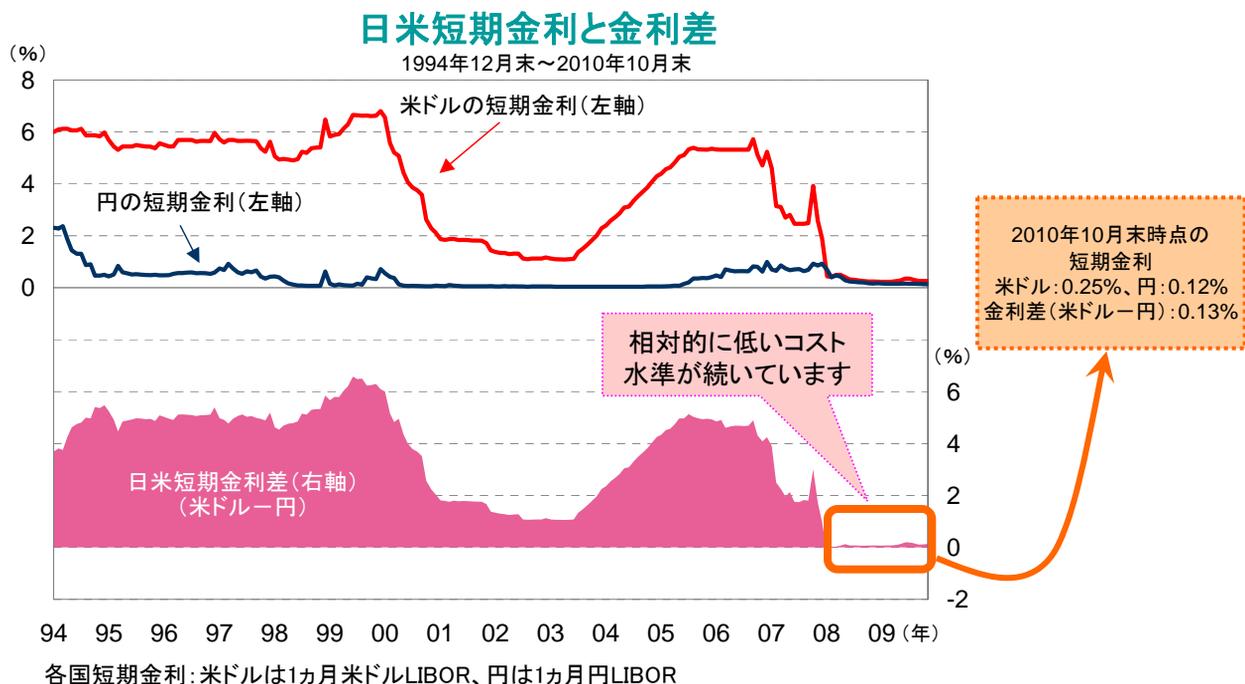
## コストの低下で魅力高まる為替ヘッジ ～米ドル建資産を円ヘッジする場合～

ここ数年、様々な投資機会を求めて、海外の資産に投資される方が増えていますが、海外の資産、いわゆる外貨建資産に投資をする場合には、為替変動リスク(特に円高による資産価値の減少リスク)がつきものです。しかしながら、「為替ヘッジ」をすることによって、為替変動リスクを抑えることが期待できます。(※ただし、「為替ヘッジ」をすることによって、円安になった場合でも為替差益を得ることはできません。)

為替ヘッジとは、一般的に「為替予約」という手法を活用し、今の時点であらかじめ、将来の為替レートを予約する(確定させる)ことです。例えば、「1年後に、1米ドル＝〇〇円で交換する」という契約を結ぶことによって、為替レートの変動による影響を抑えるというものです。

「為替ヘッジ」には、一定のコスト(経費)がかかります。一般的に、外貨建資産に投資して為替ヘッジを行なう場合、円とヘッジ対象通貨の「短期金利」同士の「金利差」相当分が為替ヘッジコストとなります。(※短期金利の水準によっては為替ヘッジプレミアムとなる場合があります。)

コストが低ければ、為替変動リスクが抑えられつつ外貨建資産の相対的に高い収益を得ることができます。下のグラフは、日米短期金利と金利差の推移です。2008年の金融危機以降、米ドルの短期金利の大幅な低下によって、米ドルと円との短期金利差の縮小が進み、為替ヘッジコストが非常に低い状態が続いています。また、米国の金融緩和政策が継続されれば、コストが低い水準が続くと考えられ、米ドル建資産の円での為替ヘッジは引き続き魅力的なものといえるかもしれません。



※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成